

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要(事業所記入)】			
事業所番号	4372400939		
法人名	有限会社ホリ		
事業所名	グループホームたんぽぽ		
所在地	熊本県玉名郡南関町四ツ原1338		
自己評価作成日	2024年1月	評価結果市町村受理日	令和6年5月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」
所在地	熊本県熊本市中央区水前寺3丁目15-1
訪問調査日	令和6年3月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな田園風景を眺望できる小高い丘の上であって、すぐ近くには、毎年お花見の招待をしていただける大きな工場もあり、民家も点在しています。また近隣にはいろいろなお花の名所に恵まれており、機会あるごとに出かけて季節を味わっていただいております。ホーム内にも常に野の花、山の花に気を配り、四季を感じていただいております。米作農家と直接契約し、砂地で収穫された美味しいお米を購入し、スタッフや近所の方の畑で出来た新鮮な野菜をいただいたり、ホーム内の畑を入居者様と作り、季節の野菜などを収穫し、美味しさを追及した料理を作っています。入居者様一人一人がその人らしく安心した生活ができるように、家族、地域、医療との連携を図り、スタッフ一人一人が入居者様に寄り添い支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

建物内の換気に配慮した環境づくりに努め、これまで入居者のコロナ感染者は一人も出ていない。食事は、3食とも職員が調理し、入居者と一緒に食べており、家庭的な雰囲気大切に支援している。年間を通しておやつ作りをしたり、ウッドデッキでお茶や食事を摂り、季節を味わう楽しい暮らしの支援を行っている。また、毎月の費用は、家族がホームに支払いにくるシステムを取り入れ、入居者との接点を確保し、家族との絆の継続を支援している。終末期の支援については、利用者の希望に沿って事業所でできることを説明し、協力医療機関と連携して取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者様本位で、地域の中で安全に楽しく生活できますように、全スタッフの意識統一と向上の為に、月1回の全体ミーティングの時に唱和している。	開設者の思いが込められた運営理念を引き継ぎ、毎月開催のミーティングで唱和している。理念は、玄関や各ユニットに掲示して職員への浸透を図っている。	入居案内のパンフレットや、「たんぽぽだより」等にも運営理念を掲載し、家族や地域の人々に伝えることも望まれる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	グランドゴルフ「たんぽぽ杯」を毎年開催し、多くの住民に楽しんでいただいている。ボランティアの受け入れも積極的に受け入れ、年間行事ののちに交流が図れるように組み込んでいます。隣接する工場との相互交流や買い物や外出など地域の一員として交流を図っている。	コロナ禍以前は、隣接する工場から花見の招待を受けたり、子ども合唱団・人形劇・話し相手等のボランティアを受け入れて交流を図っていた。また、グランドゴルフ大会を主催して景品を提供し、地域交流・貢献を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人の理解や支援などを訴えながら、事業所の地域貢献のひとつとしてグランドゴルフ「たんぽぽ杯」を毎年開催しているが、地域の人に向けて活かすというのはなかなか難しい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的(2ヶ月に1回)に会議を開催し、ホームの2ヶ月間のサービス実施の取組状況を報告し、家族や知見者や行政からの意見を基に話し合い、その後のサービスに活かすようにしている。	現在は対面での運営推進会議を中止しており、書面にて行事や活動報告を行っている。運営推進会議は、利用者家族・町介護保険担当課職員・社協・民生委員・区長・他施設ホーム管理者等の委員で構成されている。	対面での会議が再開できるようになったら、ホームの抱える課題についても話し合い、委員からのアドバイスや支援を得て、より効果的な会議となることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2ヶ月に1度の運営推進会議には町役場の担当の方に毎回出席いただき事業所の実情や取り組みを伝えるなど協力関係を築くようにしている。	運営推進会議に介護保険課職員2名の参加を得ており、会議においてホームの現状等について伝えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の介護保険法指定基準については、随時ミーティングなどを行い説明して理解してもらっている。	入居者の状況や対応等についての話し合いは、ミーティングで実施されている。しかし、身体拘束等の廃止に関する研修実施の記録は確認できなかった。	法定研修やその他の研修等について記録を整備することが望まれる。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法については、全体ミーティングや勉強会、または回覧にて知識を高め全スタッフの意識を引上げお互いが注意しあえる関係を作っていくように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当施設では対象となる方々がいないので、実感性が乏しい。ですが、勉強としては取り上げたり通達や回覧などで流している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、家族に重要事項説明書に沿って説明を行い、「保険分」と「自費」の部分をわかりやすく1ヶ月分にして説明をし、ホーム内の見学も行い納得して締結を図っている。解約も相手に合ったやり方でしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月1回利用料の支払いに足を運んでいたく事を原則としており、来所持を通して家族様又は当方よりお願いや相談を話している。	毎月の支払は、家族が来訪して支払うことを原則としており、その際、家族からの意見や要望を聞き取ることにしている。また、3カ月に1回「たんぽぽだより」を発行し、入居者の「状況報告書」とともに家族へ郵送し、報告している。以前は毎年行っていた家族会を、来年度は再開したいと考えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティングや個人面談を利用して、スタッフの意見を出しやすい場作りに努めている。その結果、意見や提案が行われ良いと思われる個々のケアの方法や運営方法が取り入れられている。	毎月のミーティングでは、行事の反省や予定等についての話し合いや、入居者ごとの状況などについて報告し、状況の共有を図っている。ケアに関する職員の意見や提案は、その都度話し合い、改善に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や実績などを考慮して、やりがいある職場、向上心を持てるような職場作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時に当ホームで経験のあるスタッフが指導したり、他の施設への研修、県の研修参加を含め、ミーティングの中で担当を決め発表の場を作っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	たの事業所の推進会議、玉名郡市GH連絡協議会への参加を通して周りの見聞を広め、交流することで質を		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人に対面にてゆっくりと会話を行うことで、サービスに不安を抱かせることなく本人の不安を理解する対応を心かけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安をゆっくりと話、聞ける環境に努め安心して家族の気持ちを話していただくことに心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	一番困っていること、一番心配していることを対応の中より探り、いろいろなサービスの説明を行ってみることで、相談者にあったものを自ら選べるように図っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に体操したり、歌ったり、リビングで過ごしたり、食事は同じものを一緒にとり、入居者様によっては食事の準備後片付けや洗濯物をたたんだり、畑仕事をしたり、散歩をしたり本人と共に一日を過ごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	3ヶ月に1回の状況報告書と2ヶ月に1回のたんぽぽ便りを郵送することで家族の知らない一面を知っていただき、また訪問時の本人様との面会が良い形で出来る様に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の面会は時折あってはいるが限られており、本人からの要望があってもなかなか行くことも困難であり、悩むところです。	入居前の知人等の来訪が時々ある。会いたい人など、本人からの希望があった場合は、家族に協力を依頼しているが、実現は容易でないケースが多い。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食卓の席やリビングで過ごす場所、入浴の順番など、入居者様同士の関係を把握し関わり合いがうまくいき孤立させないように配慮し支援している。支障が生じた場合は随時変更している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームのいろんな事情があって移る必要のある方に、次の施設への不安を少しでもなくすため入所後の訪問や関係者への情報提供と家族・本人へのフォローができることを伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その場になると本人の思いよりスタッフの考えで動いてしまい、一部の人にストレスとして出ることもあり、申し送り・連絡ノート・全体ミーティング・その場の注意で極力本人本位の重視の指導に努めている。	「ゆっくり話そう」等、毎月、職員目標を設定して本人の思いを汲み取る努力をしている。また、日常会話の中から漏れ聞こえる希望などは、職員間で共有を図り、家族にも相談して対応している。	入居者の思いや行動に対して、より適切に対応できるよう、継続的な職員研修の実施を期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしは、本人に寄り添い話を聞く中で把握。また家族からの情報などで、生活環境・サービスの利用経過などの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌や連絡のノートを勤務に入る前に必ず読んでおくことを指導して、勤務交代時は必ず申し送りを行い、その日の本人に合った対応をするようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的ミーティングの場や現場スタッフに記入を依頼したり、家族訪問時に希望などを聞き、また主治医との相談も入れたり、現状のニーズに近い介護計画とモニタリングが出来ている。	管理者が計画作成担当者に、入居者の状況等について情報を提供し、ケアプランの見直しが行われている。	入居者の状況やニーズに沿ったケアプラン作成と見直しのために、現在の計画策定過程の改善が求められる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌・連絡ノート・まるごととらえたケア記録に記録を行い、課題に対してうまくいった方法などスタッフ間で情報を共有して、今後の計画に約立てるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況の変化やニーズに対して医療機関との連携や外出による気分転換など、柔軟な支援やサービスを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	生活の中に生きがいや張り合いをもっていただくためボランティアの訪問や行事計画の実践の中で、今以上に地域資源の上手な利用を行うことでより心身が健康になれるように努力していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	馴染みの病院受診付き添い又は協力医の定期的な往診や受診により家族との相談を支え、安心した医療を受けていただいている。	入居時に協力医療機関による往診について説明しており、現在、全ての入居者が協力医を主治医としている。また、緊急時も、24時間協力医院における相談体制が構築されており、適切な医療を受けられる環境が整備されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在看護師の配置はありません。協力医療機関との24時間体制の対応の取り交わしは行っており、医療機関からの定期的な往診と他の医療機関への定期受診を行っております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報の提供と、病院への同行をすることによって本人や家族の安心に努めており、入院時の面会や関係者への連絡を行っている。また地域医療連携室との交流の場での情報交換も訪問して入手に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の場合、人員体制や高レベルの支援方法も必要で現時点では困難であると思われる。そのため、連携している医療機関に搬送し、対応してもらおうにしている。本人・家族とできるだけ早い段階で話し合い、事業所としてできることを行っていく。	入居契約時に「終末期ケアについての事前確認書」について説明し、その時点での希望を聞き取ることにしている。その後も、年に1回のペースで意向の確認を行い、協力医と相談しながら、ホームで出来る限りの支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全体ミーティング、研修、マニュアル、情報として流しており、スタッフ個々の能力の違いによる対応に差がないように繰り返し訓練している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署と防災会社の協力を得て防火訓練を行っている。定期的にスプリンクラーなどの点検も行っている。	3月と11月に夜間の火災発生を想定した避難訓練を実施している。これまでの訓練での課題は、訓練企画書に記載して職員に配布し、職員に注意喚起を促している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に言葉の使い方、対応には力を入れています。スタッフトイレにも入居者様の人格及び言葉使いについても張り出し理解を深めています。書類管理は事務所に保管・管理し、プライバシーの保護にも努めています。	「言葉を大切に使いましょう」と、職員トイレに掲示し、コミュニケーションやチーム作りなどについて職員への働きかけを行っている。入居者用の便器は二つ並んで設置され、間に他の視線を遮るカーテン等は設置されていない。プライバシーの確保に課題が見られた。	トイレのプライバシー確保のため、目隠し用カーテンを設置する等、速やかな対応が望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉のかけ方や毎日の関わりの中で、信頼関係が出来てきた時に入居者様が自分の訴える事が出来ると思います。気持ちを受け入れやすい環境作りに力をいれています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ついスタッフのペースで行って入居者様との口論もあっていますが、その都度またはミーティングの中で反省する場面もあり、介護者としての誠意とプライドで落ち着いて業務に臨むようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回、訪問散髪に来ていただいております。その時に顔そりをされる方もいます。洋服も自分で選べる方には自分で選んでいただいております。そうでない方は着方が偏らないように配慮しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの中で収穫した野菜を利用したり、できる方とは一緒に準備や後片付けをしスタッフも入居者様も同じ食事を一緒に食べて味を批評している。食事の準備・後片付けも一緒に出来ている。	職員手作りの食事が提供され、入居者と職員が同じ食事を食べている。鏡開き、焼きそば作り、桃の節句、おはぎづくりなど、年間を通しておやつ作りやイベントを行っている。天気の良い日は、外にテーブルを出して食事やお茶を楽しんだり、コロナ禍前は、外食の支援も行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の状態と状況をしっかり把握して、本人に必要な食事提供の仕方・水分の進め方・食事摂取のやり方もおいしく確実に安全に食して頂くように支援しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自ら歯磨きが可能な入居者様には、自身で行っていただいている。ご自身で出来ない場合はうがいなどを行い口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄サインを見逃さずに昼夜問わず、トイレでの排泄ができるように支援していますが、なかなか状況を判断出来なくて失敗もあります。少しでも失敗やパットの使用を減らせるように努めています。	排泄確認票で個々の排泄パターンを把握し、タイムリーなトイレ誘導に努めている。現在、ポータブルトイレの使用者はいない。一人ひとりの状況に応じたりハビリパンツやパットを検討し、利用者の費用負担に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬や浣腸に頼らない自然な排便ができるように取り組んでいる。朝からの運動や繊維質の多い食事及び必要な水分確保などにより、予防に取り組んでいる。高齢者なので必要な時に薬を上手に使い、無理のない排泄や下痢が無いように対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1日おきの入浴だが楽しみにしている。拒否が強い場合はシャワー浴・足湯のみにしたりしている。体調により入浴できなかった場合は翌日に入浴を行っている。	少なくとも週2回、入浴できるように支援している。コロナ禍前は、4月に足湯ツアーも行っている。浴室に暖房設備がないため、浴槽に湯を張って温めてはいるが、シャワー浴の場合は浴室温度管理に配慮が必要と思われる。しょうぶ湯・晩白柚湯・ゆず湯などで、季節を楽しむ入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠については、日頃より昼夜逆転のないように、日中は運動などを取り入れたレクレーションなどにより、覚醒を保ちながら活動されるように支援している。状況に応じては居室で休んでいただくようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の確認はスタッフにより責任もって行っている。薬の説明にて名前・作用及び副作用などの注意事項を確認するようにしているが、全員把握はできていないため、再度理解に努めます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様によっては、畑仕事や食事の買い出し・準備・後片づけ・ホームの周囲の散歩などをしていただいている。ゲーム・作品作り・誕生日会・月の行事及び季節の行事を通して、入居者様に楽しんでいただき気分転換などを支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム周囲の散歩などいつでもいかれているが、天気次第では入居者様全員に声掛けして散歩したり、食事をしたりしている。	コロナ禍以前は、菖蒲や菜の花、バラやコスモスなど季節を楽しむドライブ等に出かけていた。また、外食や足湯を楽しむ外出支援も行っている。感染症の状況を見ながら、外出支援を行いたいとしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭的トラブル防止の意味もあり、個人的にはお金は所持されていません。ただし必要な買い物は立替払いによりその時にスタッフ同伴にて買い物を行ったり、買い物ツアーの計画の中で必要なものを購入されるように支援しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により電話したり、ご家族様にも電話の取次ぎができることを伝えています。郵便物も制限はしておりません。しかし、できるだけ面会して頂ければと思っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い玄関ホールにはスロープ、広い廊下には手すりやエアコン、リビングにはゆったりと寛げるソファや大型テレビ、エアコン。居室やどの空間にも大きな窓があり、四季の景色、鳥や虫の音が楽しめます。浴室やトイレも清潔保持に努めています。	全館ヒノキ張りの床で木のぬくもりが感じられる。日中は、殆どの入居者がリビングでおしゃべりしたり、テレビを見たり、音楽に合わせて運動をするなどして過ごしており、キッチンからの見守りがしやすい。コロナ禍は、適切な換気に努め、これまで入居者からは一人の感染者も出していない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれにゆっくりできるスペースと自由に自分の思いの場所に行くこともでき、入居者様同士ソファで楽しみ、食事テーブルを囲んで雑談や作業で過ごせるように工夫をしています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は一人一人自由にご使用いただっており、馴染みの物や好みの物の持ち込まれたりして、安全に過ごしやすいように使っていただいています。	居室の窓からは敷地内の桜を眺めたり、近隣の豊かな自然の眺望を楽しむことができる。室内はホームが設置しているベッドと整理タンス以外のものを自由に持ち込むことができるが、全体的にシンプルな部屋が多く見られた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はバリアフリーで手すりやスロープもあり入居者の安全を考えた造りである。散歩やホーム敷地内の畑やベンチに出られる時もスタッフが見守りやすい造りとなっています。		